

ロータリー2510地区地区奨学生月例報告 留学先:イタリアFirenze

2022年7月
清水一智子

フィレンツェは毎日厳しい暑さが続いています。連日の30度越えの環境に体が慣れず、6月末から体調を崩して、今月の初旬とうとうコロナにかかってしまいました。熱中症だと思っていた体のだるさは発熱で、喉の痛みも10日ほど続きました。自宅療養中味覚にも異常がでて不安でしたが、なによりも辛かったのは長引いた咳の症状です。陰性が証明されてからも咳が続き、夜は眠れないことも多く、歌ってる時も咽せてしまうので本当に辛かったです。そんな中フィレンツェのコンセルヴァトリーオの受験試験日を迎え、演奏して来ました。まだ咳の後遺症に悩まされていたのでかなり不安でした。残念ながら演奏の最後の最後で咽せてしまい、悔いの残る演奏になってしまいました。受験にエントリーするための語学試験には合格していたので本当に無念ではありません。受験する音楽学校はフィレンツェだけではないので、次の受験に向けてまた練習と体調管理を徹底して取り組んでいきたいです。

7月11日から1週間、ルチアーナ・セツラという有名なソプラノ歌手のマスタークラスを受講してきました。サンレオという小さい町に1週間滞在し毎日レッスンを受けることができ、最終日には公開レッスンが行われるというプログラムです。まずサンレオという町はエミリアロマーニャ州にある人口2900人の基礎自治体です。海沿いの街リミニから2つバスを乗り継ぎ、山を登っていくと岩山の突端にサンレオ城が見えてきます。そのお城の下に小さな広場があり、そこが町の中心です。この広場はルパン三世カリオストロの城の舞台にもなっています。マスタークラスの初日、私は絶望の底でした…。流暢にイタリア語が話せるわけでもなく、ヨーロッパの音楽学校に通っていたことがあるわけでもなく、まだ咳も完全に良くなっていたわけではなく、ああ…間違った場所に参加してしまった…と後悔していました。マスタークラスには6人のソプラノが参加していました。宿泊先で同室だったのは中国人とイタリア人で3人部屋でした。この2人はとても良い人たちで、イタリア語を教えてくれたり分かりやすく話してくれたりたくさん助けてくれ、私の気持ちも少しずつ不安が減っていきました。越えられない壁は絶対はない、大きな課題に衝突した時は大きな成長のチャンスだ!!!と思えるようになり、1週間の生活もレッスンも乗り越えることができました。レッスンでは声を誉めていただくことができ、偉大なソプラノ歌手からのお言葉は私の自信につながりました。もちろん、発声のことや曲についてのこと、演技、発音についてもきちんとレッスンしてください、素晴らしい経験をすることができました。一緒に参加していたメンバーたちとも打ち解けることができ、絶望を感じていた初日からは想像もできないほど成長を感じることができました。

7月は私の誕生日があり、イタリアでできた友達たちが祝ってくれて一生忘れられない思い出になりました。7月29日には語学学校の夏コース修了テストがあり、無事合格し、これからは音楽学校の受験の準備に一番力を入れていく時期です。語学勉強は自分で頑張っていきます。そして7月下旬に日本からロータリー学友会元会長の宮坂真依子様がいらっしゃって、お会いすることができました。そこで、ロータリーアクトクラブへの参加をしてみてもどうかと提案していただき、やっとなロータリー奨学生としての活動もできるのではないかと楽しみにしています。



サンレオの町



サンレオからの景色



最終日、マエストラと記念写真

一緒に参加したメンバーと、ピアニストと記念写真

